

「海の子・山の子・畑の子」で食育

金沢港漁業協同組合女性部
部長 平野世紀子

1. 地域の概要

金沢市は、南北に長く伸びる石川県の南端から約3分の1のところに位置し、ご存じのように、加賀百万石、前田利家公のお膝元として、歴史と文化を重んじている街であります。

また、金沢市は県庁所在地でありながら、農業や漁業も盛んに行われており、ズワイガニやブリなどの新鮮な魚介類の水揚げや、太キュウリや加賀レンコンなど加賀野菜が生産されております。

伝統料理も数多くあり、地元食材を使ったかぶら寿司、治部煮などがあります。

2. 漁業の概要

私たちの所属する金沢港漁協は、平成16年度末で正組合員51名、准組合員6名の計57名です。小型・沖合底曳網漁を中心とし、主に甘エビ、ズワイガニ、カレイ等を水揚し平成16年度の水揚量は、約1,000t。水揚金額は、約8億円でした。

金沢港は夜にセリを行うため、午後8時頃各船入港します。私たちは、30分程前から漁港で船を待ち、魚の荷下ろし作業の手伝いや、次の出港の準備などで、大変忙しくなります。

3. 研究グループの組織と運営

現在部員は20名、部長1名、副部長1名、班長4名を中心に活動しています。港まつり等のイベントに参加し、魚食普及を目的としてエビ等の小魚を調理して販売します。また、これらの活動によって、女性部員間の交流を深めています。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

平成8年に、石川の農山漁村に生きる女性が、21世紀に向かって、さまざまな役割を果たすことを目的として策定された「石川県農山漁村女性はつらつビジョン」の実現に向けて、金沢市では「金沢地区農林漁業女性連絡会」が設立されました。

メンバーは、市内にある生活改善実行グループ連絡研究会・中核農家連絡

協議会女性部・農業協同組合女性部（2団体）・漁協女性部（2団体）・森林組合員とそれぞれの事務局によって構成されています。

連絡会では、取組の共通のテーマとして地元の食材や食文化などに関心を持ってもらうために「食の教育」を取り上げました。

そこで、次代を担う子供たちに海・山・畑の第一次産業で産出される食べ物と仕事について、また、農・林・漁のそれぞれの役割と機能の大切さについて、知ってもらうことを目的として活動を実施することとしました。

実際に現地での見学や体験、生産者とのふれあいをおしてこれらのことを学習してもらうこととしたのです。

5. 研究・実践活動状況及び成果

「海の子・山の子・畑の子」交流会は、平成9年より始めました。小学4年生から6年生を対象に年1回、夏休み期間に1泊2日で活動を行います。

海の子・山の子・畑の子を順に活動し、3年連続参加すると農業・林業・漁業を一通り体験することとなります。

募集は金沢市内各小学校の協力によって行い、定員は30名とし、参加費は2～3千円として食費と宿泊費のみ参加者負担となっております。

施設は公民館等を利用し、食事についても連絡会会員が生産した野菜や漁協女性部から提供された魚活用し、経費のかからないよう工夫しています。

また、会を開催するときは傷害保険もかけ、万が一にも備えています。

これらの活動は、体験しながら学習するというものですが、子供たちだけでなく、私たちも異業種との交流を深めることで、他産業について研修することができる貴重な場なのです。

（1）海の子活動

『海の子』で子供たちは、漁業について体験学習します。漁業に接することの少ない子供たちにとって、漁業を知る良い機会です。

私たち女性部は、できるだけ子供たちに分かりやすいように

- ①石川県の主な魚を獲る漁法、漁獲量、水揚げされる魚の種類、海況等
 - ②水揚げした魚は、鮮度が命であること。そのために手早く作業をしていること
 - ③海の上では、危険がたくさんあること
 - ④大漁のときは、とてもうれしいこと
- 等の海で働く人達の暮らしや苦労話と喜びを伝えます。
- ⑤時化の時は、漁に出たお父さんや息子が心配でならないこと。
 - ⑥安全に船が無事、港に戻ってからは、私たち奥さんたちが、魚の陸揚げの手伝いをする事など、家族みんなで漁をするお父さんや息子を支えていること

⑦海を守るために海浜清掃を行っていること、山に木を植えていること、天然石けんが海にやさしいことなどを説明します。

子供たちは、説明を真剣に聞き、『魚は、どうして鱗があるの?』などの質問をします。

夜ごはんは、漁協女性部や生活改善グループのお母さん方と一緒に魚料理をして「海の幸の手作り料理」を味わいます。

子供たちは、魚やイカを触るのは初めてで、ぬるぬるする、生臭いと言っていました。

しかし、私たちが魚の捌き方のお手本を見せた後、魚を捌かせてみると、子供たちは危ない手つきながら、一生懸命、はらわたを取り除くなどしていました。

包丁を持って料理する機会の少ない子供たちにとって、魚を捌くことも貴重な体験なのです。

捌いた魚を焼くと、自分たちで料理した魚の味は格別で、『おいしい、おいしい』と言って、ほおばっていました。

食事の後、子供たちは、金沢港にて行われる夜せりを見学し、魚の量と種類の多さと、せりが始まると威勢のいい声と初めて聞くせり独特の言葉に子供たちは大変、驚いていました。

翌日、最後の体験として子供たちは、漁船の乗船体験をします。

2日間と限られた時間ではありましたが、漁業の話聞き、魚を捌き、漁船に乗船し、とても多くのことを子供たちは体験学習できたと思います。

(2) 山の子活動

山の子では、山の仕事についての学習を森林組合の協力で実施しました。

草刈り機による下草刈り、木起こし、樹齢30～50年の木の枝打ちを見学し子供たちは、高い木の上で枝を打つ姿に「ウー怖い」と言いながらも感心していました。

さらに、木の年輪の話や金沢に植栽されている木の種類と、木がどのように生活のなかで使われているか、また、紙も木から出来ている話を聞いて驚いていました。

その後、川遊びを体験、川の浅瀬に100匹のニジマス放流しつかみ取りを体験しました。

つかみ取りしたニジマスで森林農家やグループのボランティアの方の持ってきた野菜でバーベキューを行いました。

川魚を食べる機会のない子供たちには、新たなごちそうの発見です。

翌日は、丸太伐りを体験し、慣れないのこぎりに一生懸命挑戦して皿を作り、その他、竹細工による竹の箸、そばちょこを作りました。

また、そば打ちを体験し、こねたりのぼしたり、子供ならではのそばが出来上がり、竹細工で作ったそばちょこ箸を使って食べます。

夏休みということで、木の小枝を使ってみの虫を作り、子供たちは、宿題の工作も作ってしまうのです。

(3) 畑の子活動

畑の子では、金沢市の農業センターの協力を得ながらビデオを通して学習し、農業センターの圃場で金時草・へた紫なす・一本ふとねぎ・千石まめ・赤皮栗南瓜などの加賀野菜の栽培を見学します。

子供たちは、見たこともない野菜に目を見張り「野菜はこうして、なっている」と、野菜がどこで、どのように出来るかを実感するのです。

集荷場では、トマト・スイカ・太キュウリの選果、箱詰め、出荷の流れを体験しました。

ここで、良品、キズ、サイズの大小を選果することで、スーパーに並べられている野菜は、きれいで大きさが揃っていることを知ります。

晩ご飯では、畑から取ってきたばかりのトマトやキュウリを食べ、野菜本来の美味しさを知り、野菜嫌いだった子供も、好きになったりします。

また、ボランティアの方々から、民話芋掘り藤五郎（五郎島金時のさつまいも）の話などをして子供たちに地元の民話を伝えます。

翌日は、ハクサイの植え付けと大根の種まきを体験しました。広い圃場で農家の人たちがテープシーダーで種まきしている様子を見学し、テープシーダーが水に溶け、種から、芽が出ることを聞くと、子供たちは実際、水たまりで試し、効率化された種まき作業を実感するのです。

この交流会は、平成9年から始まり、これまでの9年間で約320人の受け入れを行いました。中には、海・山・畑と3年続けて参加する子供もいました。

交流会が終わった後で子供たちに感想文を書いてもらいますが、海・山・畑を大切にするという感想や、海・山・畑で取れる食べ物がそれぞれどのようにして自分たちの元へ運ばれているのか、また、生産に携わっている人たちの仕事の難しさや大切さを子供なりに感じているようで、今後の活動の活力となります。

6. 波及効果

私たちの取り組んできた、これらの活動については、私たち漁協女性部だけでなく、体験に協力している農家、林家、漁家のボランティアの方々も互いに協力しなければなりません。

この活動を通じて、私たちは多くの農家の方や林家と親交を深めることができ、また、情報の交換や活動範囲の拡大に繋がりととても有意義なものとな

っております。

7. 今後の課題や計画と問題点

9年間続けてきたこの活動も、最近、参加者が減少傾向にあります。少子化や子供たち自身が夏休みでも塾、クラブ活動等が主な理由です。

これからは、参観者が増えるように活動開催の周知方法や活動内容の見直しを実施し、農林漁業のすばらしい点を今後も子供たちに伝えていきたいと思っております。